

2019年度 1級審判員認定審査 第1次審査合格者対象宿泊研修会 報告書

研修会名：2019年度1級審判員認定審査 第1次審査合格者対象宿泊研修会

日時：2019年7月27日(土)～28日(日)

会場：幕別町運動公園陸上競技場、明治北海道十勝オーバル会議室

講師：上川徹氏 (JFAサッカーS級審判インストラクター)

参加者：審判員2名、S級INS1名、1級INS4名、2級INS7名 計14名

報告者：HKFA審判委員会指導者部部長 村山尚哉

7月27日、28日の日程で上記研修会を帯広市、幕別町にて開催しました。

JFAより上川徹S級インストラクターが講師として来道され、2日間充実した研修会となりました。

1日目は1次審査を通過した2名の審判員の試合分析を中心に行いました。

上川氏が1次審査で実際に主審を務めた2名の審判員の映像からストロングポイントや課題点などを分析し、それをビデオクリップにしてきて下さり、①ポジショニング ②判定 ③マネジメント 大きくこの3つをポイントにディスカッションしました。

試合前の『試合のゲームプランを考える』という事では、

試合開始10分はどうする？ 試合終了10分前はどうする？ 同点の場合は？ など自分なりのゲームプランを考えることの重要性も学びました。いつも通りは大事な事、ただ『どういつも通り』なのかが重要。

3つのポイントについての具体的なポイントは下記の通りです (一部抜粋)

【ポジショニング】

- ・次の目的を持つことが重要 (目的を持ったポジション)
- ・ペナルティーエリア内への侵入は常にリスクを考える、入るべき時に入る。
- ・チーム戦術を理解する⇒予測or動き出しにつながる

【判定】

- ・なぜ吹けなかったのかを考える (ポジションも良い、事象も見えている、反則と認識・・・なのに笛が吹けない理由)
- ・サッカーではありえる、起こりえる接触を見極める

【マネジメント】

- ・注意の声、質を大事にする、強さを持つ=ゲームコントロール
- ・ファウルの悪さ、ファウルの質を感じる
- ・はっきりと、メリハリ、伝え方⇒選手と審判員の違い (立場) を明確にする
- ・セットプレー時のプロセスを整理しておく
- ・審判員がボールを手取ることはNG、どちらかのチームに手を加える行為はしない (スローインのボールを渡す、FKの再開位置にボールを置くなど)

上川氏のビデオクリップが審判員を今後更に伸ばすべくストロングポイント、課題点を明確にしており、非常に勉強になりました。

これまでの経験、知識などが詰め込まれており今後の指導に活かすには十分すぎる内容でした。

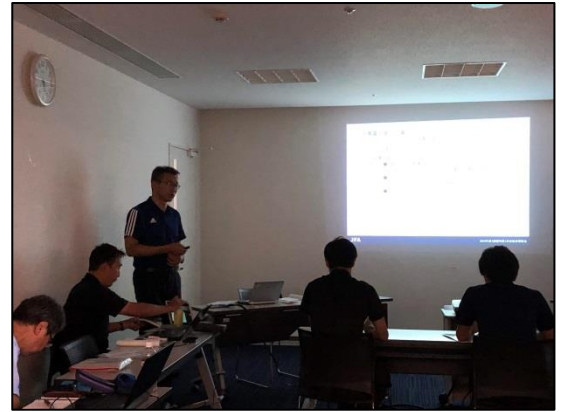
2日目は知事杯全道サッカー選手権大会3回戦を使わせていただき1次通過2名の審判員の試合分析を行いました。

競技場電光掲示板の温度計で37.5℃を表示する猛暑の中、2名の審判員は最後まで走り切り、最高のゲームコントロール、パフォーマンスを発揮していました。試合終了後は2級インストラクター2名がそれぞれ約30分間で審判員へフィードバックを行い、合わせて上川氏にもフィードバックをしていただきました。フィードバック後に審判員は解散、その後、上川氏より分析を担当した2名のインストラクターへのフィードバックをしていただいた後、全体で本日も行った2試合の評価等のすり合わせを行いました。

2日間の研修会を通して試合分析の重要性をあらためて感じました。審判員のストロングポイント、課題点を明確に切り取る、そしてそれを伝える、これが我々指導者の仕事であり、それが審判員の更なるスキルアップにつながる事を再確認できた2日間でした。猛暑の中、会場設営および大会運営、審判割当てもこなし、さらには研修会にも気を使って頂いた十勝地区サッカー協会の皆様、そして遠い北海道道東の地に講師として来て頂いた上川様、本当にありがとうございました。

2019年度 1級審判員認定審査 第1次審査合格者対象宿泊研修会 プログラムorスケジュール

月日	開始時刻	終了時刻	講義名	講義内容	場所
27日 (土)	16:15	16:30	集合・開講式		明治北海道十勝オーバル会議室1, 2
	16:30	17:15	講義①『2019/2020競技規則改正』	ハンドリングの改正についての説明	
	17:15	19:30	講義②『1次審査試合映像分析』	ビデオカメラ分析、フィードバック、解説	
	19:30	20:15	講義③『JFL主審に求められるもの』	コンピテンシーを理解する 他	
	20:15	20:20	休憩		
	20:20	20:50	講義④『アセスメント評価の考え方』	一貫性ある評価のために	
	20:50	21:00	事務連絡、解散		
7 28日 (日)	9:30	10:00	集合、試合分析準備		帯広市運動公園陸上競技場
	10:00	12:30	試合分析① 知事杯3回戦	教育大学岩見沢校サッカー部vs東海大学札幌校サッカー部	
	12:30	13:15	昼食、休憩		
	13:15	15:00	試合分析② 知事杯3回戦	北海道大学体育会サッカー部vsルブルツ北海道FC	
	15:00	15:30	休憩、フードバック準備		帯広市運動公園陸上競技場2階研修室
	15:30	16:00	試合分析② フードバック	試合分析 (30分)	
	16:00	16:30	試合分析② フードバック	試合分析 (30分)	
	16:30	17:15	インストラクターへのフードバック	振り返りの手順および評価すり合わせ	
	17:15	17:30	閉講式、解散		



【参加者コメント】

・柳元良文 氏 (公財) 北海道サッカー協会審判委員会委員長 (JFA サッカー1 級審判インストラクター)

今回のサッカー1 級審判員 1 次試験合格者の映像を用いての、JFA 審判委員会トップレフェリーグループ上川徹氏のレフェリング分析に参加させていただきました。映像を用いての分析はこれまでも様々な研修会等で実施しているところではありますが、上川氏の①ポジショニング、②判定、③マネジメント、大きく3 つの観点での分析は、とても細かく、何となく見逃してしまうような所までも拾っていただき、その原因、改善点までアドバイスいただきました。今回の研修で得た内容(レフェリングの分析方法)を北海道に広めるとともに、審判員育成に努めていければと思います。

・今川一輔 氏 苫小牧地区サッカー協会所属 (HKFA サッカー2 級審判インストラクター)

本研修会は、J F Aより上川 徹氏をお招きして二日間の日程で行いました。一日目は、競技規則の改正 (特にハンドリング) の講義から始まり、これまでの判断をどのように解釈して、またどう修正する必要があるのかなどの変更点を共有することが出来たとともに、J F L 主審に求められるものとアセスメント評価の考え方の講義では、何を見て、何を感じ、どこを見るために動き、どう考えたのか等を観察し、行動特性 (コンピテンシー) も含めて審判員のパフォーマンス分析や評価につなげて行かなければならないと感じました。二日目は、実際の試合を使い審判員に対してのフィードバック実践を行いました。①ポジショニング、②判定、③マネジメントと大きく3 つの視点から試合を分析し、キーインシデントも含め、コンタクトの判断、見ていた位置、なぜその位置から見たのか、懲戒罰の理由、そして一連の事象をどう考えていたのかなど、審判員の考え方や意見を引出し、良かった点や改善点の確認、そして今後の具体的な取り組みなど、審判員と学んだ事を共有する大切さも改めて認識した研修会でした。

研修会会場となった十勝協会の皆様、そして講師の皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。